

# 新聞メディアはCOVID-19をどう報じたか？ 全国紙における「接触8割減」の内容分析

関西大学 社会安全学部

菅原慎悦, 小林誠道, 長井裕傑

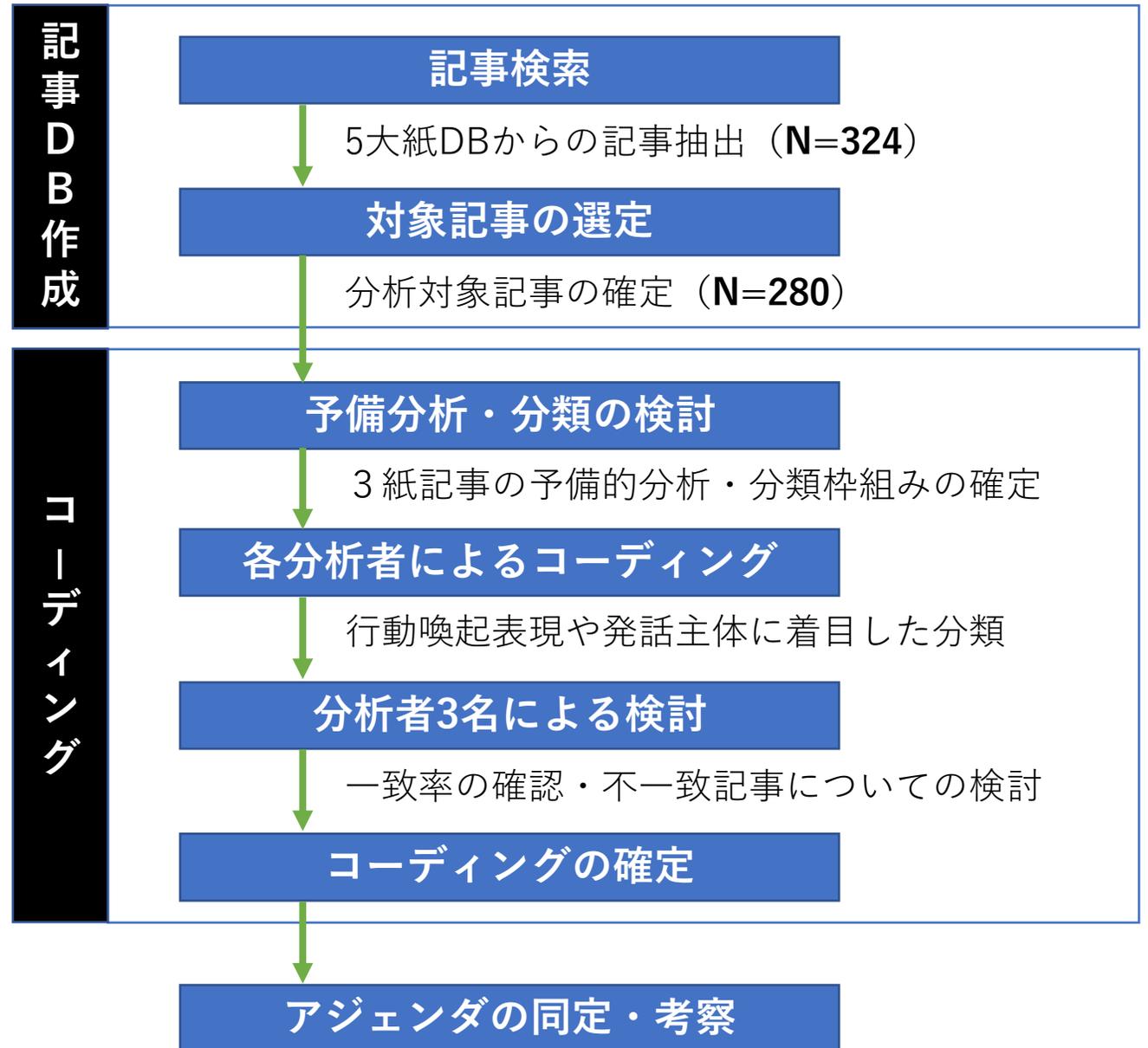
20220215

# 問題意識

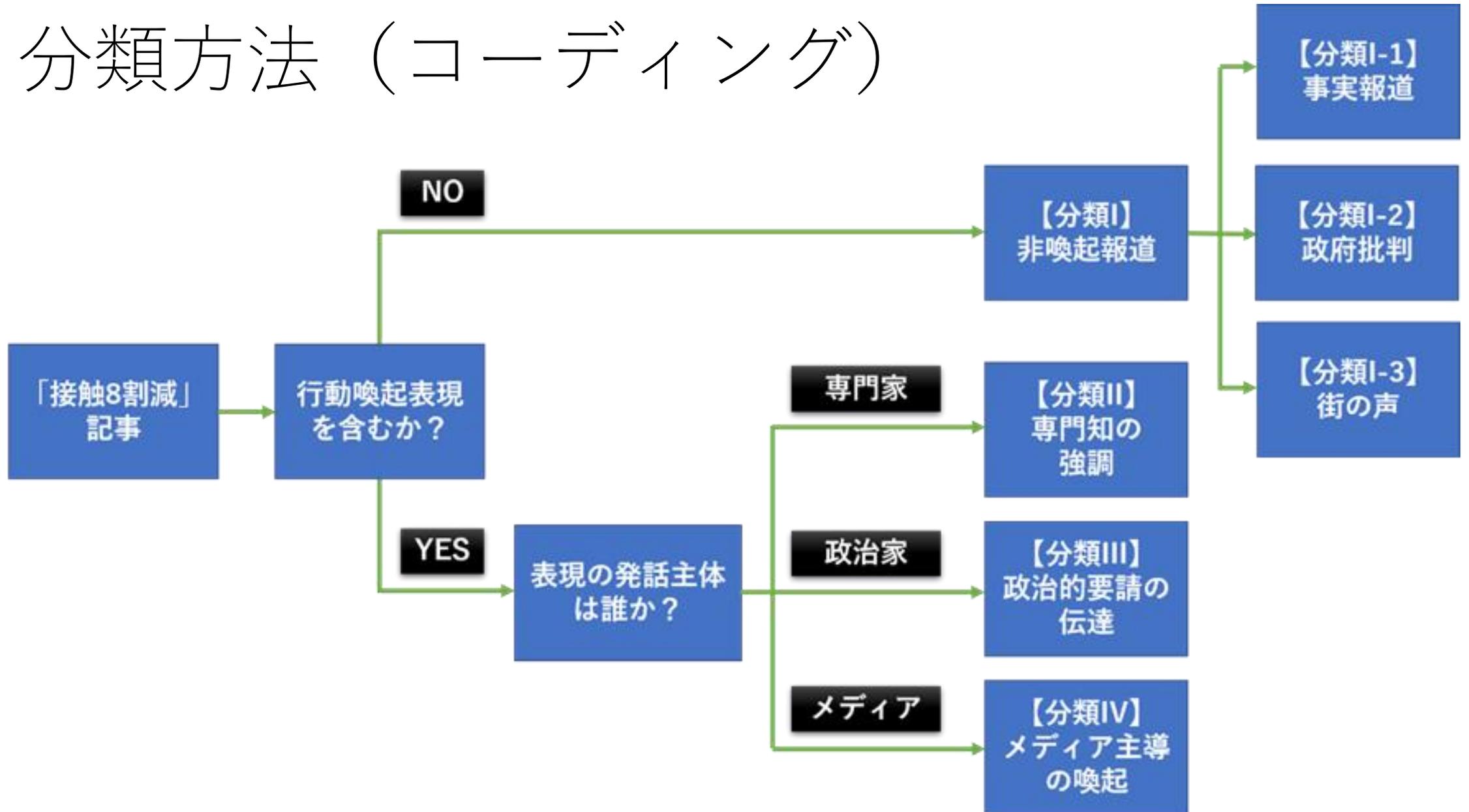
- 1回目の緊急事態宣言中、非強制的な要請にも関わらず、なぜ多くの人々は外出を自粛したのか？
- その過程における**メディアの役割**とは？
  - メディアの「アジェンダ設定」機能 (Protest & McCombs 1991; 竹下 2008)
  - 伝統的メディアとしての新聞 (小笠原 2010; 朝山・石井 2011)
  - 「感染症とメディア」研究 (Jaspal & Nerlich 2016; Muzzatti 2005)
- **数値**への着目：科学技術社会論 (STS)、科学技術社会学
- 「**人と人との接触を8割減らす**」報道の内容分析 (content analysis)
  - 「接触8割減」は、新聞媒体でどのように報じられたのか？
  - 「接触8割減」の新聞記事は、人々の行動を喚起する表象を帯びていたか？

# 研究方法

- 記事選定
  - 2020/04/01-2020/6/30
  - 5 全国紙から280件
- 記事の分類
  - 著者3名によるヒューマン・コーディング
  - 詳細は次スライド
- 考察
  - 時系列的变化を分析
  - 各時期のアジェンダを同定



# 分類方法（コーディング）

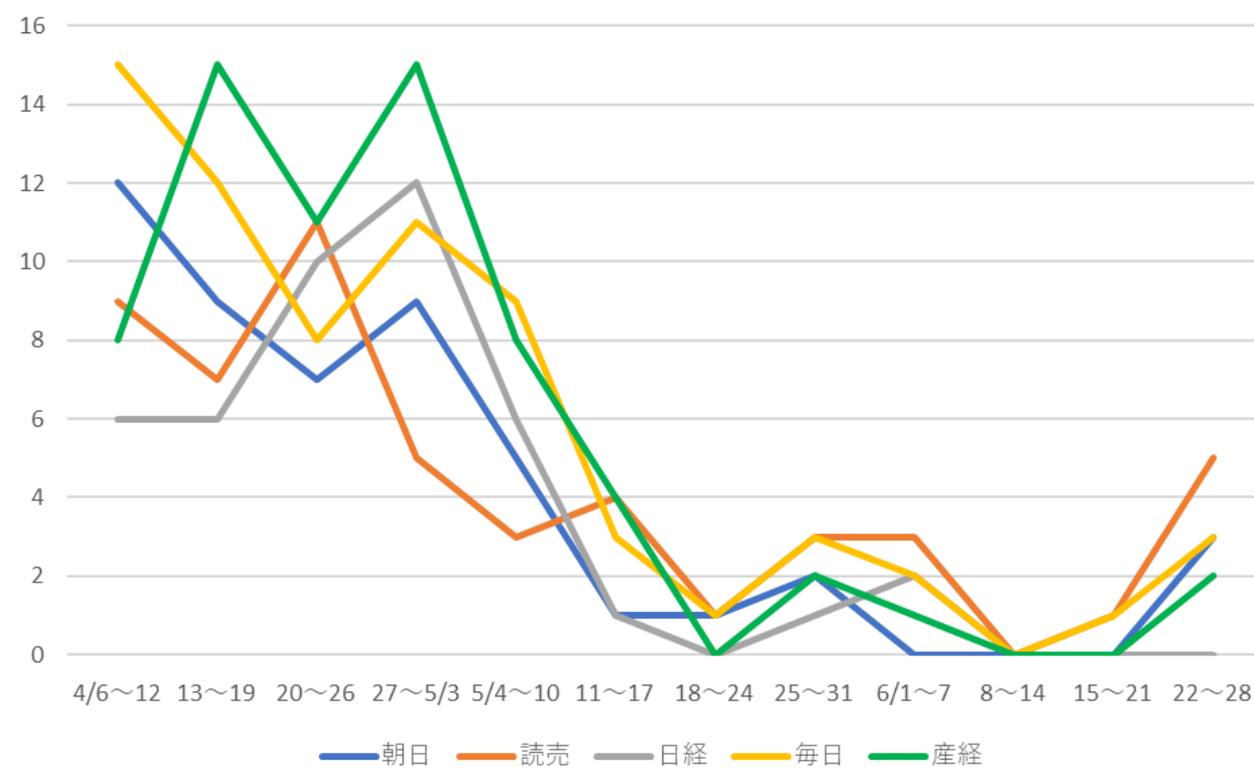


# 記事数の変化

## 全紙合計



## 各紙ごとの記事数

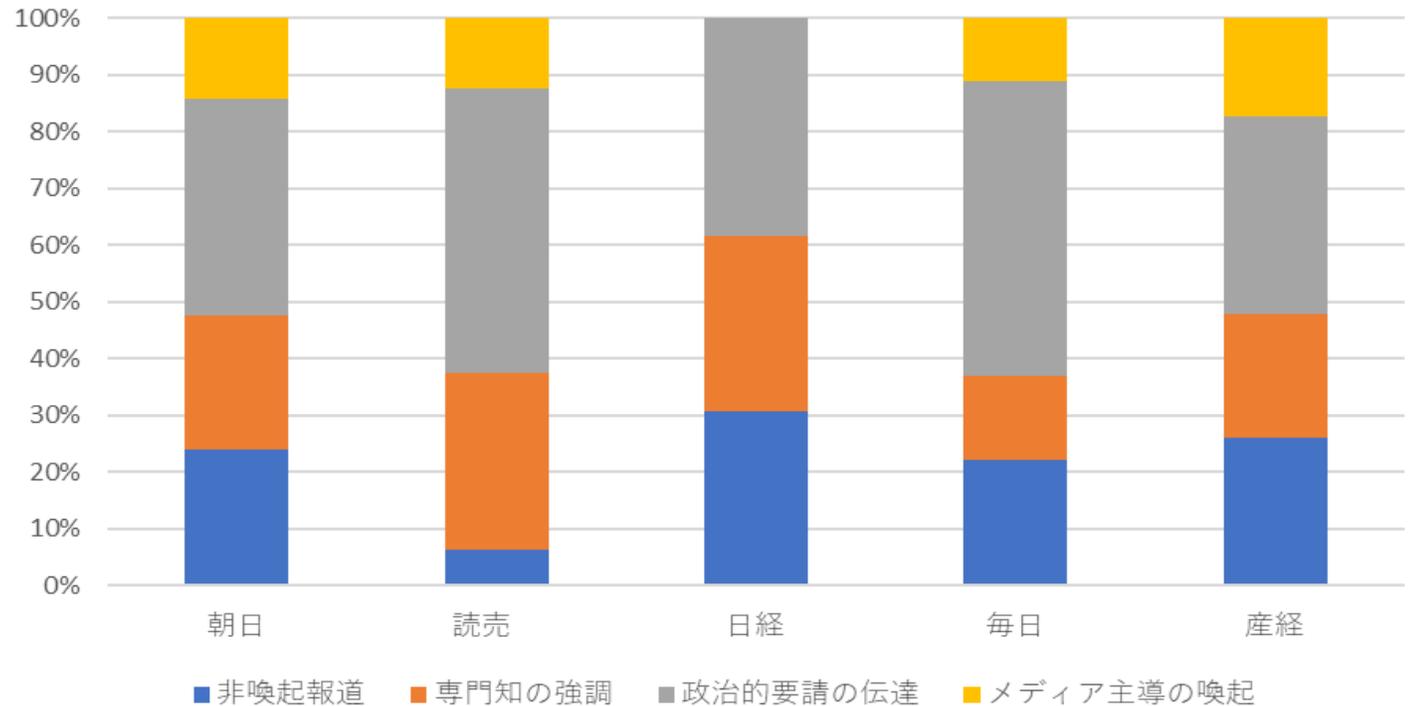


# Phase 1 (4/1-4/19)

## 目標の社会的認知

- 4/7 緊急事態宣言発令
  - 「最低7割、極力8割」
  - 4/16 宣言の全国拡大
- 「政治的要請の伝達」
  - 「**接触8割減**」の政府要請を論評や反駁を加えずに報道
  - 「8割減をいかに実現するか」という観点の記事が多い
- 「専門知の強調」
  - **西浦モデルの数値予測**
  - 公衆衛生の専門家発言や医療現場の逼迫状況の紹介など

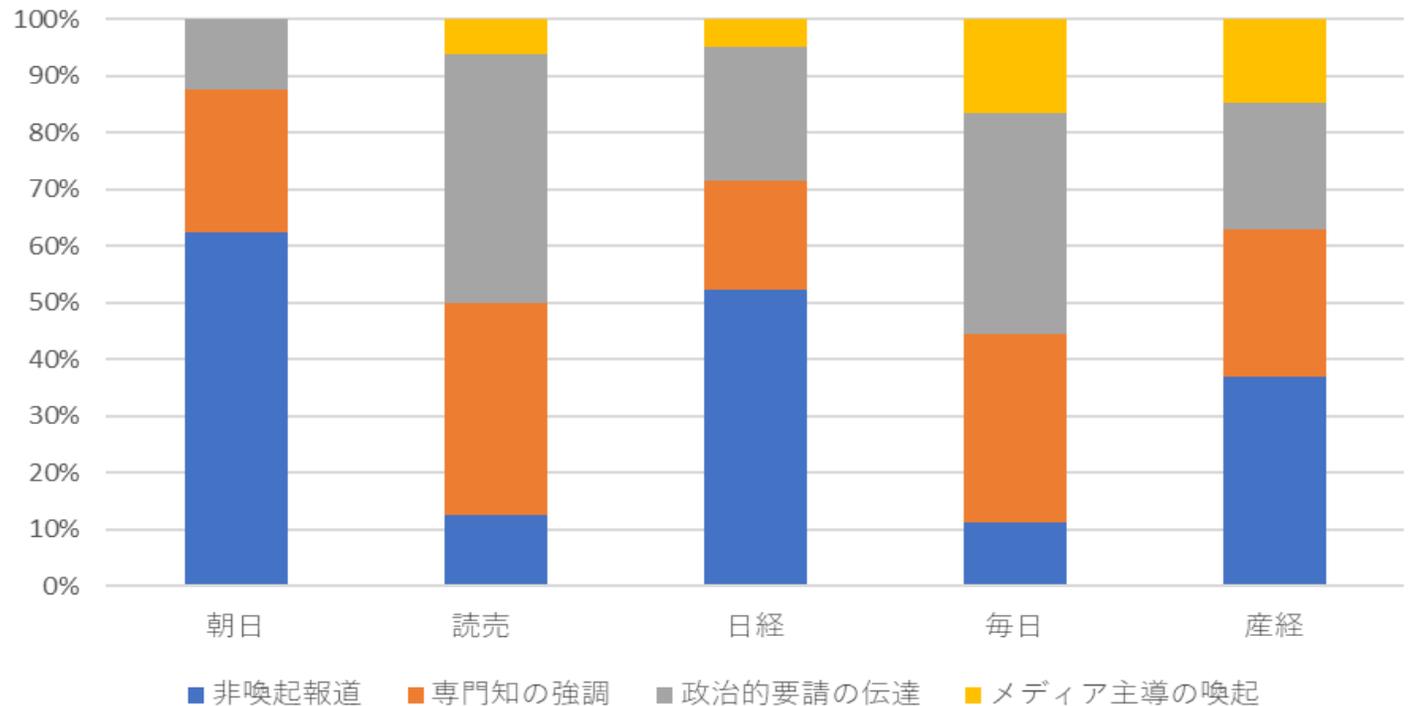
4月1日～4月19日		朝日	読売	日経	毎日	産経	記事数合計
非喚起報道	事実報道	2	0	1	3	3	9
	政府批判	1	1	1	3	2	8
	街の声	2	0	2	0	1	5
	合計	5	1	4	6	6	22
専門知の強調		5	5	4	4	5	23
政治的要請の伝達		8	8	5	14	8	43
メディア主導の喚起		3	2	0	3	4	12
各紙合計		21	16	13	27	23	100



# Phase 2 (4/20-5/3) 未達状況の社会的確認

- 緊急事態延長問題が焦点化
  - GW中の人出が懸念材料
  - 経済影響とのバランス
- 「非喚起報道」
  - 人出データが「接触8割減」の代理指標として注目
  - 「接触8割減」に向けた社会的努力の不足を示唆する表象
- 各紙の傾向
  - 読売・毎日：人出データ＋専門家発言で外出自粛を促す
  - 日経・朝日：非喚起報道が多い

4月20日～5月3日		朝日	読売	日経	毎日	産経	記事数合計
非喚起報道	事実報道	5	1	7	2	6	21
	政府批判	0	0	3	0	2	5
	街の声	5	1	1	0	2	9
合計		10	2	11	2	10	35
専門知の強調		4	6	4	6	7	27
政治的要請の伝達		2	7	5	7	6	27
メディア主導の喚起		0	1	1	3	4	9
各紙合計		16	16	21	18	27	98

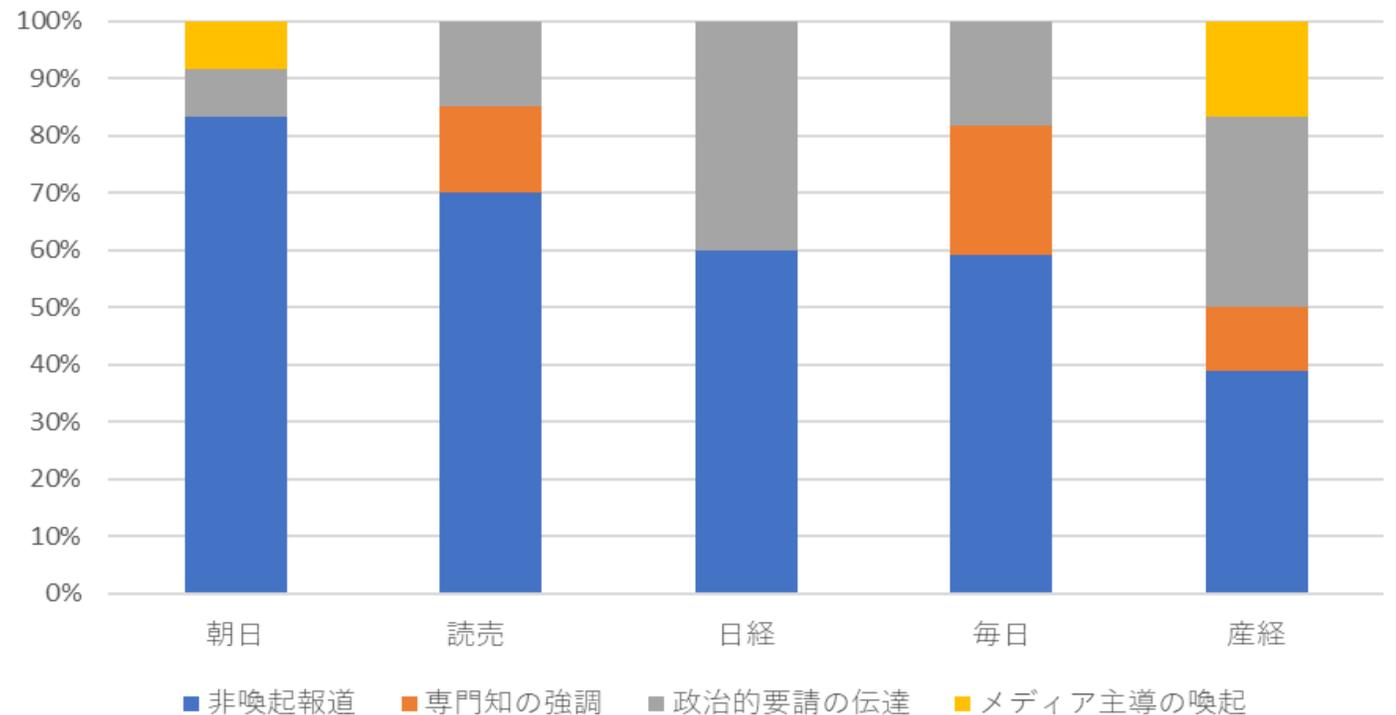


# Phase 3 (5/4-6/30)

## 『8割』の社会的検証

- 政策的文脈の変化
  - 5/4 「**新しい生活様式**」
  - 専門家会議の立ち位置が争点化
- 「8割減」報道の急速な減少
  - 行動自粛等を促す記事は少数
- 「非喚起報道」が半数以上
  - **専門家会議の役割や位置づけを検証する記事**が多い
  - 政治家と専門家との関係に焦点
  - 専門知のあり方に対する精査の記事は少ない

5月4日～6月30日		朝日	読売	日経	毎日	産経	記事数合計
非喚起 報道	事実報道	8	10	2	10	6	36
	政府批判	1	2	3	0	1	7
	街の声	1	2	1	3	0	7
合計		10	14	6	13	7	50
専門知の強調		0	3	0	5	2	10
政治的要請の伝達		1	3	4	4	6	18
メディア主導の喚起		1	0	0	0	3	4
各紙合計		12	20	10	22	18	82



# 「接触8割減」の無批判的な受容

- 社会的目標としての「接触8割減」
  - 「接触8割減」は当然のこととして報道
  - **目標の妥当性や必要性を問い直すような批判を伴わず** ⇒ 政治的争点化を免れる
  - 新聞社の論調の差は、目標自体ではなく目標実現に向けた政策手段の違いに
- WEBメディアの表象との違い
- 数値目標と政策目標の同一視
  - 「接触8割減」や人出データは代理指標に過ぎないが…

## 政府目標と社会的目標



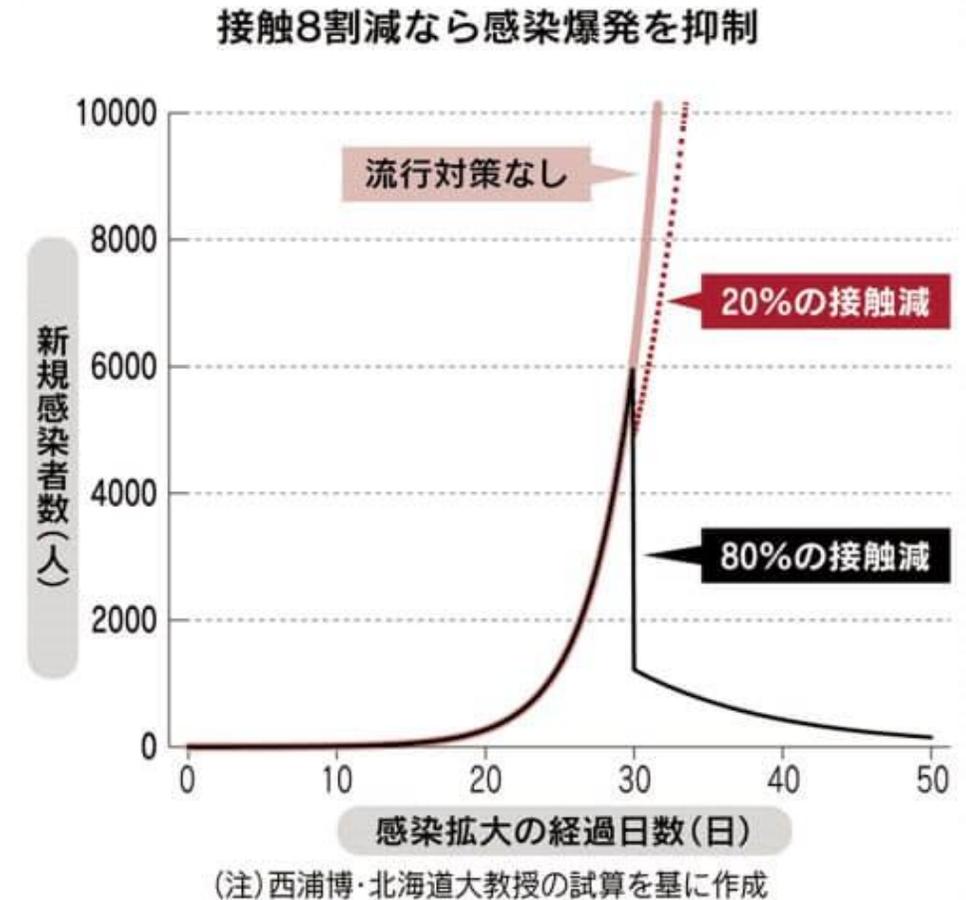
東日本大震災後の節電



コロナ前のテレワーク  
インフル予防接種

# 「科学」としての「接触8割減」

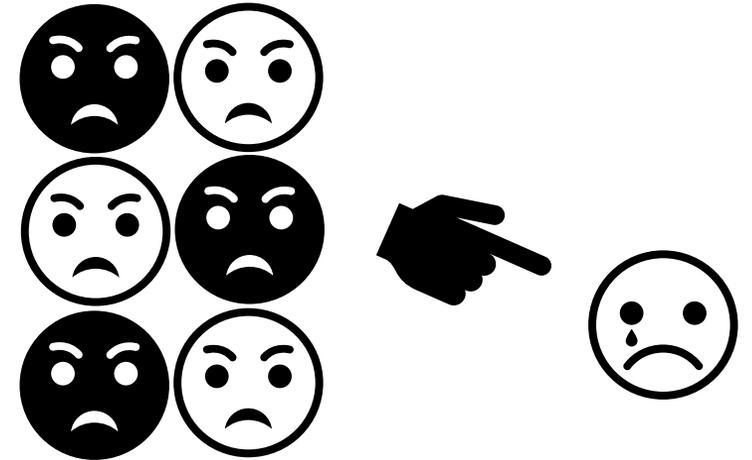
- 「科学的」な目標として表象
  - 「科学」に基づく妥協の余地のない数値目標
  - 数理シミュレーションによる感染者数予測
- 「科学」の功罪
  - 「8割が科学的に必要」と表象することで、フレーミングをめぐる政治的闘争を回避？
  - 実行可能性や社会経済影響は事後的に議論
  - 感染抑制という点では「成功」といえようが、問題の「科学化」で不可視化された側面も？



# 圧縮された日常性への眼差し

- 責任帰属のフレーミング

- 問題の責任を誰かの所為にしようとする
- 例：SARSやHIVでの「他者化」(othering)
- コロナでは「夜の街」批判も
- 今回の分析では「夜の街」非難は少なかった



- 「数」としての努力不足

- 非難対象を明確にせず、社会全体として自粛が不足という含意
- 不定形な日常生活を「接触」という形で数値化することは困難
- その**圧縮過程でこぼれた側面が「街の声」の記事に反映？**

# 専門知の持つ不定性の不可視化

- 根拠とされた数理予測の報道
  - **基本的想定の不確かさには言及せず**（例：実効再生産数）
  - 数理予測批判の著しいWEBメディアとの差
- 「『8割』の社会的検証」でも…
  - 科学と政治の関係を問うも、**科学／政治の二分法**が前提
  - **科学と政治が不可分に絡み合う問題**という視点を反映せず
- **不定性（incertitude）**への言及回避の背景は？
  - 科学を価値中立なものとして扱う日本メディアの特性？
  - 人々の行動変容への支障を恐れてメディアが「自粛」？



Image: <https://www.carneculina.de/>



Image: <https://oneworldmeatco.com/>

# まとめ

Phase 1 4/1~4/19

## 目標の社会的認知

- ・ 「接触8割減をいかに実現するか」に焦点
- ・ 目標の必要性や妥当性を問う対抗的アジェンダの不在

Phase 2 4/20~5/3

## 未達状況の社会的確認

- ・ 人出データと目標の比較から社会的な努力不足を強調
- ・ 数値に圧縮される日常性への視点が「街の声」に反映

Phase 3 5/4~6/30

## 「8割」の社会的検証

- ・ 「接触8割減」から「新しい生活様式」への置換
- ・ 科学と政治の関係を検証、専門知の不定性は不可視化

# 今後の課題

- 本研究の限界

- アジェンダ設定の部分のみに焦点：新聞報道と行動変容との関係は？
- 分析者の属性に由来するコーディングの偏り

- 本研究からの示唆と課題

- 「接触8割減」の新聞メディア表象が、人々の外出自粛等を促す一方で、「自粛警察」を生む一因にもなった可能性
- 専門知の不定性を「開く」(opening up) ことで、科学即政策という硬直的な認識を緩和させ、社会的排除行動を抑制しうるのでは？
- どのように専門知の不定性を開示し、公共的議論に載せればよいか？
- 不定性の開示は、専門家の信頼を損ねることにならないか？
- 多様なメディアのなかで、新聞報道の果たす役割とは？

# ありがとうございました。

本研究は、関西大学社会安全学部菅原ゼミ2020年度春学期の新聞メディア分析をもとにしています。本研究の過程では、田中幹人教授（早稲田大学）、標葉隆馬准教授（大阪大学）との議論から、多くの示唆を得ました。御礼申し上げます。

本研究の一部は、JSPS科研費19K15271の助成を受けました。

ご参考：

菅原・小林・長井「新聞メディアはCOVID-19をどう報じたか？—全国紙における「接触8割減」の内容分析—」社会安全学研究 11: 57-81, 2021.

[https://www.kansai-u.ac.jp/Fc\\_ss/center/study/pdf/bulletin011\\_7.pdf](https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/center/study/pdf/bulletin011_7.pdf)

S. Sugawara, Eliminating Human Agency: Why Does Japan Abandon Predictive Simulations?, *Science, Technology, & Human Values*, 2021.

<https://doi.org/10.1177/01622439211051777>